

科目名	ソーシャルワーク演習 I					単位	2
担当教員	伊東 真理子						
授業形態	演習	開講期間	前期	配当年次	2	授業番号	2430

●授業のテーマ

ソーシャルワークの支援技術について体験的に学習する

●到達目標

- ・講義科目で学んだ知識と関連づけながら、実践における知識・技術・価値の理解を深める。
- ・専門職としての自己覚知を深める
- ・実践の場にふさわしいコミュニケーション技術をマスターする
- ・相談援助における基本的な面接技術をマスターする

●学習内容(授業概要)

〔授業の目的・ねらい〕

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として理論的に体系立てて理解したり説明できる能力を涵養する。

〔授業全体の内容の概要〕

具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)や体験学習を中心とした演習形態により、個別指導並びに集団指導を通して、ソーシャルワークの基礎的な支援技術を学ぶ。

●学習内容(授業計画)

《前期》

1. 〈オリエンテーション〉

授業の進め方 レポートの書き方

2. 自己覚知

自己紹介(わかりたいこととわかってほしいこと)

3. イメージを用いた自己紹介または自己表現

4. ライフ・ヒストリー

(自分からみたものと家族や友人からみたもの)

5. 視聴覚教材から学ぶ1(自分の物語と家族の物語)

6. 視聴覚教材から学ぶ2(教材をもとにグループで話し合う)

7. 〈基本的なコミュニケーション技術の学習〉

日常会話を録音して逐語録を作る

8. ボディ・ワーク1(認知と現実)

9. ボディ・ワーク2 対人距離(物理的・心理的)境界のあり方

10. 非言語的コミュニケーション(心身および意図と行動の相関)

姿勢 しぐさ 表情 声の大きさ 話す速度などの観察

11. 内容の反射と感情の反射

(ロールプレーを録音して逐語録を作る)

12. 〈基本的な面接技術の学習〉

フォーカシングの技法1

体験過程レベルの評価

13. フォーカシングの技法2

フェルト・シフトの体験学習とそのときの身体的変化の観察

14. ゲシュタルト療法の5つの質問

観察にもとづいて気づきをうながす技法の体験学習

15. くまとめ

●準備学習・事後学習の内容

準備学習 テキスト等で、講義内容の下調べをし、よくわからないところを確認しておくこと。

事後学習 講義で提示した課題についてレポートにまとめること。

●成績評価方法・基準

レポート（随時）（30%）、平常点（30%）、授業に臨む姿勢（40%）で評価する。

●テキスト（必携）

ソーシャルワーク演習教材開発研究会『ソーシャルワーク演習 【第2

版】』みらい（渡邊先生・伊東先生・大橋先生・平澤先生・鶴田先生・武藤先生・倉持先生使用分）

●参考文献／その他

授業時に指示する。

●履修上の注意

内容が、基礎的なものから順番に組み立てられているので、やむをえず欠席する場合は、クラスメートにその回の内容、次回の授業までにやっておくべき課題について必ず確認しておくこと。